

萎凋細菌病に対する トルコギキョウ品種の発病差異



写真1 萎凋細菌病罹病株

写真2 萎凋細菌病汚染ほ場での発病状況
（‘海ほのか’ 定植27日後）写真3 萎凋細菌病汚染ほ場での発病状況
（‘海ほのか’ 定植41日後）表 定植後の発病指数²⁾の推移

品種	発蕾日 ^{y)}	定植 ^{x)} 後日数			
		13日	27日	41日	55日
セレブピンク中生	—	0.1	2.1	2.9	3.0
セレブ2型ピンクver. 2	—	0.1	2.5	3.0	3.0
エレスライトピンク	9/27	0.2	1.7	2.8	2.9
ボヤージュ2型ライトピンク	9/25	0.1	2.2	2.8	3.0
セレブプリティ	9/24	0.0	1.3	2.4	2.9
ボヤージュ2型スノー	9/22	0.0	1.9	2.7	3.0
リリックホワイト	9/21	0.0	1.1	2.4	3.0
セレブリッチホワイト	9/21	0.0	1.4	2.4	3.0
海ほのか	9/21	0.1	0.5	1.7	2.7
レイナ2型ディーブラベンダーver. 3	9/20	0.0	1.6	2.8	3.0

2) 発病程度を0～3の4段階評価した32株平均。0が発病なし、1が軽微な病兆あり、2は株全体の50%程度に病兆あり、3は成長点が枯死した状態とした。

y) 発蕾までに枯死していない株のみの平均とし、—は発蕾までに全株が枯死したことを示す。

x) 各品種を20株/畝、4畝に株間10cm、条間10cmの4条で令和5年8月23日に定植した。1品種当たり8株/畝、計32株を調査した。

近年、高知県東部のトルコギキョウ産地では、萎凋細菌病(病原菌 *Burkholderia caryophylli*)の発生が問題となっています(写真1)。発病ハウスを観察したところ、発病には品種間差が見られました。

そこで、萎凋細菌病に対する品種の発病差異を調査するため、所内試験を行いました。定植6日前に萎凋細菌病の発病株および発病株の栽培土壌を混和した汚染ほ場で、10品種を栽培し、品種ごとの発病程度を評価しました。

その結果、定植27日後には、ほとんどの品種が発病指数1以上であったのに対し、‘海ほのか’は0.5と最も低く(表、写真2)、定植41日後においても、‘海ほのか’の発病指数は1.7と他品種に比べ低くなりました(表、写真3)。以上のことから、萎凋細菌病の感染速度には品種間差があり、特に‘

海ほのか’は他の品種に比べ耐病性を有することが示唆されました。

今回は汚染ほ場での試験であり、定植55日後には供試品種のほぼ全てが枯死してしまいましたが(表)、耐病性のある品種と土壌還元消毒等の防除法とを組み合わせることで、被害を軽減できる可能性があります。

本県では、ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業を活用して、本試験を含む耐病性品種や低濃度エタノールによる土壌還元処理を用いた土壌病害対策に取り組んでいます。今後は、発病の見られる現地ほ場で、品種の耐病性を評価していきます。

(花き担当 三島 尚子 088-863-4918)

(病理担当 坂東 卓弥 088-863-4915)